

## 天神講と菅原道真

菅原道真は西暦901年右大臣を罷免となり九州大宰府へ左遷され、2年後の2月25日失意のうちに59歳で没しました。道真の死後、干ばつや大洪水が続いたことから、朝廷では道真の怨霊の祟りであると考え、罪を取消し、道真の霊を鎮めるために大宰府に道真を祀り、また京都に北野天満宮を創建しました。江戸時代になると全国各地に末社が勧請され、天神講が盛んになり、寺子屋などでは命日の2月25日道真の絵像を掛けて礼拝をしていたものです。

燕市内では今も家庭で続けられており、床の間に道真公の絵像を飾り、粉菓子や金華糖を供え、25日に下げて家族そろって、健康はもちろん学業成就・受験合格それぞれの道での上達を祈念して食べる慣わしです。

